TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY
ISSN 0385-7506 http://www.library.tohoku.ac.jp/

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.43, No.2
2018. 7. 1

▶古典資料見学（文学部国語学研究室（担当：大木一夫教授））

オーダーメイド講習会、好評開催中です！

附属図書館本館では、ゼミや授業の一コマを利用して行う「オーダーメイド講習会」を開催しています。
レポートや論文作成に欠かせない文献の探し方や、学部生が書庫を利用するための「書庫ガイダンス」、普段なかなか見ることのできない古典資料の見学など、様々なメニューから選択できます。
受講した学生からは、「図書館利用の幅が広がった」、「貴重な資料を見ることができてワクワクした」、「書庫を活用できるくらい勉強しなければと思った」などの感想が寄せられています。

夏 号

Contents

表 紙
オーダーメイド講習会、好評開催中です！

インタビュー
- 新館長にインタビューしました。 2
- 新副館長にインタビューしました。 3

TOPICS
- 日・EUフレンドシップウィーク2018展示「ヨーロッパレード！ －建築と歴史のカーニバル－」の開催 4
- 第10回グローバルセッションを開催 5
- 「東北大学懇談会」で図書館を開放 5

SERIES
- 〈青葉山コモンズ〉青葉山コモンズは、多くの方々に利用されています 6
- 〈つながり〉の一冊 『冥王星を殺したのは私です』文学部2年 渡邉 彩佳 6

INFORMATION
- 学生選書企画2017 “Class Picnic : A Day in the Bookstore”を行いました 7
- 2019年（来年度）の学生用雑誌購読希望調査を実施しました 7
- Language Studioで語学を学んでみませんか 7
- 医学分館に公式キャラクターが誕生しました！「星陵次郎と申します」 8
- 工学分館は40周年を迎えました 8

東北大学附属図書館報 KIBOKO

本誌「木這子（きぼこ）」は、東北地方の方言で「こけし」を意味します。最寄りの附属図書館本館・各分館等で配布しておりますので、図書館の情報誌として、皆さんの学習や研究に、どうぞお役立てください。ご意見・ご感想は lib-som@grp.tohoku.ac.jp 宛にメールでお寄せください。

インタビュー

新館長にインタビューしました。

大隅典子副学長が附属図書館新館長に就任されました。

プロフィール

大隅　典子（OSUMI, Noriko）

所属・職：副学長（広報・共同参画担当）
医学系研究科附属創生応用医学研究センター長
医学系研究科発生発達神経科学分野　教授

専門分野：神経発生学、分子生物学

大隅館長は、広報・共同参画担当の副学長であり、医学系研究科附属創生応用医学研究センター長も務められています。図書館への想いや、青春の一冊などについて、伺いました。

Q1 本学の附属図書館にどのような印象をお持ちですか?

東北大学に着任したのが1998年でした。立派な図書館に足を踏み入れたときに、総合大学の歴史を感じました。『種の起源』の初版等の貴重書が多数所蔵されていることも素晴らしいですね。その後、本館の１階がラーニングコモンズのエリアに生まれ変わったときは、ディジタル時代になったのだなぁと思いました。

Q2 先生ご自身は、附属図書館をどのようにご利用になっていますか?

研究上、図書館で購入して頂いている電子ジャーナルの恩恵に被る毎日です。どのくらいのタイトルがカバーされているかが死活問題となっており、幸い、滅多なことでは自分でPDFのダウンロード購入をしなくて済むのは本当に有り難い。また、年間、数回、川内で講義を行うときや附属図書館での打合せの折には、「東北大学カフェ化委員長（自称）」として、シアトルズベストコーヒーをよく利用しています。

このエリアでもeduroam経由でWi-Fiが使えますので、私にとっては「どこでもオフィス」としてお気に入りです。各種の展示も工夫されていて見応えがありますね。何より、智の象徴である図書館という空間が大好きです。

Q3 先生の青春の一冊を教えてください。

大学生の頃は、小説等を読み漁っていて、その中から「一冊」を挙げるのがとても難しい。しかも、同じ作家の作品をまとめ読みしていたので、作家の名前は覚えていても題名が思い出せない……。ということで、現役大学生、大学院生にぜひ読んで欲しい書籍として**『遺伝子―親密なる人類史（上・下）』（2018年、早川書房）**を取り上げます。

本書は「2012年の冬、私はいとこのモニを訪ねるためにデリーからコルカタへ行った。……」という出だしで始まります。著者のシッダールタ・ムカジーは超エリートの医師であり腫瘍学者。しかも、すでに『がん― 4000年の歴史』（2016年、早川書房、こちらもお勧め！）というデビュー作でいきなりピュリッツァー賞を受賞するなど、天から何物も与えられたような方なのですが、上記のいとこのモニをはじめ、親族には複数、精神疾患患者がいます。本書は、19世紀半ばに生まれたダーウィンの進化学とメンデルの遺伝学が、「優生学」の誘惑に晒されながら、21世紀のゲノム編集までどのように進展してきたのかという科学史に、ムカジー自身の家族歴が交錯しつつ語られます。「遺伝子とは何か」という命題について、現在の最良の解が書かれた本書は必読です。

「遺伝子―親密なる人類史（上・下）」
シッダールタ・ムカジー著
本館学閲/北青葉山分館/農学分館

インタビュー

新副館長にインタビューしました。

柳原敏昭教授が附属図書館新副館長に就任されました。

プロフィール

柳原 敏昭（YANAGIHARA, Toshiaki）

所属・職：学術資源研究公開センター史料館長
文学研究科歴史科学専攻日本史学講座　教授

専門分野：日本中世史、史学史、近代大学史

柳原副館長は、文学研究科教授で、学術資源研究公開センター史料館長も務められています。図書館への想いや、青春の一冊などについて、伺いました。

Q1 本学の附属図書館にどのような印象をお持ちですか?

文学研究科に勤務していますので、隣に「無尽蔵の知の宝庫」があるという感じです。どれだけ教育・研究上の恩恵を受けているか、計り知れません。それと附属図書館といえば、世界に誇る貴重な資料を大切に保管している場所ですね。全国の86国立大学が保有する国宝はわずかに4校7件。そのうち東北大には2件あります。すべて附属図書館所蔵です。すごいことです。

Q2 先生ご自身は、附属図書館をどのようにご利用になっていますか?

史学史研究のために、明治・大正期の研究書・書籍の現物を調べる必要にせまられたことがあります。附属図書館にことごとくそろっていたのには驚きました。

こうした調べ物はもちろんですが、図書館にある古文書などの史料を調査・研究することもしばしばあります。たとえば「森潤三郎氏旧蔵米原文書（よねはら もんじょ）」。これはかの森鷗外の弟・潤三郎がもっていたもので、鷗外の孫にあたる本学の森富（もり とむ）名誉教授が医学部教授時代に寄贈されたものです。20年ほど前になりますが、80歳になろうという森先生から種々ご教示を得て、『木這子』に研究成果を発表しました。その際、森先生からは古文書をあらたに寄贈していただきました。思い出深い、貴重な経験でした。

Q3 先生の青春の一冊を教えてください。

『啄木歌集』久保田正文編（1978年、角川文庫）

「一握の砂」・「悲しき玩具」ほかが収められています。自宅にある文庫本には、大学2年次に啄木の故郷、岩手県渋民をたずねた時のスタンプが捺されています。その頃の啄木のイメージは「望郷歌人」。しかしそれは次第に「鋭い社会の批判者」へと変わっていきました。青春末期？の30代初めに読んだものですが、近藤典彦『石川啄木と明治の日本』（吉川弘文館）から受けた衝撃は忘れられません。

『君たちはどう生きるか』吉野源三郎著（1982年、岩波文庫）

流行に便乗しているわけではありません。学生時代に読んで感銘を受け、教育実習に行った母校の新聞に紹介文を寄稿した記憶があります。青春まっただ中に、すでに高校生に薦めていたわけです。今になってみると、この本が1937年に出版されていること、最初は山本有三との共著の形をとっていたことに思いが至ります。1937年の日本は破局の道に進むのか否か、最後の岐路にさしかかっていました。東北大学の歴史をふりかえってみてもその感を強くします。同年から始まった山本有三『路傍の石』の連載は1940年に中断を余儀なくされ、結局、未完に終わったのでした。

「君たちはどう生きるか」
吉野源三郎著
本館学閲
US53/013

日・EUフレンドシップウィーク2018展示「ヨーロッパレード！ ー建築と歴史のカーニバルー」の開催

附属図書館はEUi（EU情報センター）に指定されており、EU関連の資料を収集、公開しています。

例年、5月9日のヨーロッパ・デーに合わせて、日・EUフレンドシップウィークの関連イベントを開催していますが、今年は、2018年5月23日（水）から6月28日（木）の期間、「ヨーロッパレード！ ー建築と歴史のカーニバルー」と題したパネル展示を、工学研究科都市建築学専攻世界遺産学分野 飛ヶ谷研究室と史料館との共催で行いました。

ヨーロッパの建築様式と代表的な建築物について時代を下りながら紹介し、さらに日本を始めとするアジアへの影響まで、2000年の時間と空間を超えたパレードを見るような華やかな展示となりました。

さらに、片平キャンパス地区の都市景観大賞「都市空間部門」特別賞受賞と、キャンパス内の建造物5件が登録有形文化財に登録されたことを記念し、旧東北帝国大学附属図書館（現在の史料館）など、本学の魅力的な西洋建築についても紹介しました。会場で上映したドローン撮影による片平キャンパスの紹介動画は、行き交う人の注目を集めていました。

併せて、当館で所蔵する、ドイツの美術史学者アウグスト・シュマルゾーの旧蔵書から建築関係の文献や、史料館所蔵の旧附属図書館の設計図（複製）を解説付きで展示しました。

6月13日（水）には、ヨーロッパ建築をテーマとした講演会を開催しました。

第1部は工学研究科 飛ヶ谷潤一郎准教授による基調講演「ヨーロッパの建築におけるクラシック」、第2部は「建築の対外交流にみるモデルとオリジナル」のテーマで、文学研究科美学・西洋美術史専攻の遠藤彩瑛さん、工学研究科都市・建築学専攻の中島康雄さん、史料館の加藤諭准教授がそれぞれの観点から発表し、パネルディスカッションを行いました。

当日は、学内外から約60名の方々に来場いただき、熱心にメモを取る聴講者の姿も見られました。

また、本年がEuropean Year of Cultural Heritageであることにちなみ、展示期間中、ポスターラリーと関連図書の展示を行いました。ポスターラリーは、館内各所に貼られたEU諸国の文化遺産に関するポスターを探し、カテゴリーを表すアイコンを記録するもので、完走者にはEUオリジナルグッズを進呈しました。

印象的なポスターや会場の装飾により、EUカラーに彩られた１ヶ月となりました。

▶「ヨーロッパレード」展示会場

▶アウグスト・シュマルゾー旧蔵書の紹介

▶ポスターラリー

▶講演会ポスター

▶講演会の様子

▶グローバル学習室での図書展示

TOPICS

第10回グローバルセッションを開催

2018年4月27日(金)、附属図書館本館フレキシブルワークエリアを会場に、グローバルセッション「ビブリオバトル・ワールドカップ」を開催しました。グローバルセッションは、留学生と日本人学生の交流と、グローバル学習関連資料の利用を促すため、留学生コンシェルジュが企画・実施するイベントです。第10回となる今回は、本を通して人を知るゲーム“ビブリオバトル”を日本語の部と英語の部の2部構成で行い、10名のバトラーが本に対する熱い思いを発表しました。

第1部日本語の部では、イタリアやブラジル出身の留学生コンシェルジュの他、福島から来館した高校生などが登場しました。紹介した図書は日本文化に関するもの、自身が感銘を受けたものと様々で、特にコンシェルジュ達は日本文化について豊富な知識を披露していました。

▶司会はロシア人留学生のキーヤさん（文学研究科）

▶チャンプ本プレゼンターを囲んで記念撮影

第2部英語の部では、井伏鱒二の「山椒魚」やホーキング博士の宇宙論、インド出身の女流作家の小説、インドネシアを舞台にした小説といったグローバルな図書が取り上げられ、イベントタイトルの通り、まさに「ワールドカップ」となりました。

当日は、学内外から約20名の参加者があり、発表した留学生に日本人学生が英語で質問するなど、活発な質疑応答が繰り広げられました。特に日本語の部でチャンプ本のプレゼンターに選ばれた高校生には、暖かい拍手が送られ、和やかなイベントとなりました。

今後も、留学生と日本人学生の両方が楽しめる様々なイベントを企画していく予定です。

「東北大学懇談会」で図書館を開放

東北大学では、在校生の保護者・卒業生向けの「東北大学懇談会」を、2018年6月2日（土）に川内キャンパスにおいて開催しました。懇談会は、本学の教育への取り組みや学生生活、留学、就職・キャリア支援などを紹介するとともに、大学施設の見学や学生食堂の体験ができる内容となっており、附属図書館本館では、植物園やマルチメディア教育研究棟などとともに施設を開放しました。

当日は、好天に恵まれ、289名と多くの方が図書館を訪れ、図書館見学ツアーへの参加や、記念展示『東北大学と旧制二高展』の見学をされていました。

▶盛況だった図書館見学ツアー

▶旧制二高の資料に見入る参加者

図書館見学ツアーでは、5～6名の参加者に職員1名が付き、約20分かけて各フロアや地下書庫を案内して回りました。多様化する学習・研究スタイルに応じて使い分けられる各種エリアが用意されていることや、地下書庫には130万冊が収蔵されていること、カフェが併設されていることなどに感嘆の声があがっていました。

また、記念展示『東北大学と旧制二高展』は、附属図書館と史料館が共同で企画したもので、参加者は、本学設置の布石となった旧制二高の歴史や、文化と校風などを紹介したパネルを、史料館教員の説明を聞きながら熱心に見入っていらっしゃいました。

SERIES 〈青葉山コモンズ〉『青葉山コモンズは、多くの方々に利用されています』

2017年4月にオープンした青葉山コモンズ内の新図書館（全学共用機能と農学分館の二つの機能がある。）のラーニングコモンズは、農学部・農学研究科のみならず多くの部局の学生や教職員に自主学習、ゼミ、学会、シンポジウム等に利用されました。

今年度は、同じキャンパス内にユニバーシティハウスが稼働することから、更に多くの学生・留学生に利用されることと思います。

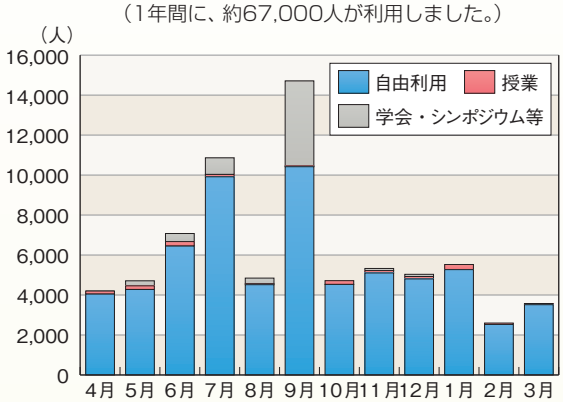
皆様も、全学的施設であるラーニングコモンズを自主学習、ゼミ、学会、シンポジウム等にぜひご利用ください。

また、これも全学的施設である最大約50万冊収容可能な共用書庫も2017年11月に本格稼働し、既に本館・各分館・図書室から5万冊以上の資料が移動されています。

資料は、リクエストにより各キャンパス図書館にデリバリー可能ですので、こちらもぜひご利用ください。

平成29年度ラーニングコモンズ利用者数

（1年間に、約67,000人が利用しました。）



▶ラーニングコモンズの利用の様子「社会にインパクトある研究 H29.6.23」

▶ミーティングスペースの利用の様子「仙台次世代農業経営者育成ゼミ H29.9.21」

▶1階共用書庫の様子（電動集密書架）

▶1階共用書庫の様子（書架の様子）

SERIES 〈つながり〉の一冊　『冥王星を殺したのは私です』

冥王星は死にました……

文学部2年　渡邉 彩佳

シリーズ＜つながり＞の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく＜リレーエッセイ＞です。

「冥王星を殺したのは私です」
マイク・ブラウン著
本館2F学閲　MB71/089
北青葉山分館1階図書
MB71/178

2006年に、冥王星の区分が第9惑星から準惑星に変更になったことを覚えている方も多いと思います。もう10年以上前のことになってしまいましたが、当時小学生であった私が、某漫画の影響で贔屓していた冥王星が惑星ではなくなると知って、一種のさみしさのようなものを感じたことは記憶に残っています。

『冥王星を殺したのは私です』という衝撃的なタイトルのこの本は、惑星という言葉の定義に関する論争を引き起こし、冥王星から惑星の地位を“奪う”原因となった星を発見したマイク・ブラウン氏の記録となっています。前半では、新たな星の発見を目指して地道に星空の観察を行っていたブラウン氏が、なかなか新たな星を見つけられない日々のなかで感じた苦悩や他の研究者に先を越されてしまうかもしれないという不安、その一方で抱き続けていた今日こそは新たな星を見つけられるかもしれないという期待が、後半では、実際に新たな星を発見してからも続く戦いと、冥王星より大きな星、エリスを発見したことで巻き起こった論争について語られています。

中学時代に初めてこの本を読み、研究の世界の一端を垣間見て強い印象を受けました。研究の世界はかくも厳しく、しかし、その厳しい中で得た発見は、かくも心躍るものなのか、と。研究の世界にあこがれを抱いたのには、この本が大いに影響しています。現在私は考古学の分野を学んでおり、この本で描かれている分野とは違っていますが、好奇心や探求心を持ち続けること、定説と言われてきたことの中からも、新たな発見の可能性はあるということなど、心の持ち方を学びました。

全体的に軽妙な語り口で語られており、ところどころに著者の日常の話も織り交ぜられています。本文中で語られている天体や研究の話も分かりやすく説明がされているので、読み物としても十分に楽しむことができると思います。ぜひ、一度手に取ってみてください。

INFORMATION

学生選書企画2017 “Class Picnic : A Day in the Bookstore” を行いました（本館）

附属図書館本館2階に「学生選書」コーナーがあるのをご存知ですか？

附属図書館では、学生が書店に出向いて図書館に置く本を選ぶ企画を2009年度から行っており、そこで選ばれた本が1年間「学生選書」コーナーに並びます。

昨年度は、ゼミ等の一環として学生が企画に参加する初の試みを行い、25名のみなさんが文系・理系各分野の348冊を選んでくれました。

学生視点で選ぶ本とはどんなものか、ぜひ手にとってチェックしてみてくださいね。

▶附属図書館２階学閲「学生選書」コーナー

▶昨年度の学生選書の様子

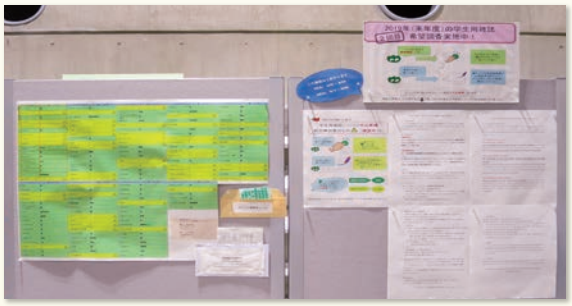
2019年（来年度）の学生用雑誌購読希望調査を実施しました（本館）

附属図書館本館では、2018年4月11日～4月24日、5月7日～5月20日の期間、来年度購入する学生用雑誌の希望調査を行いました。みなさん、投票ありがとうございました。

結果は次の通りです。

新規購入	•AERA = アエラ　•POSSE •Forbes. US ed.　•留学生新聞
購入中止	•月刊教育ジャーナル •授業力 & 学級経営力　•会計人コース

新規購入・購入中止どちらも2019年度分からとなります。



Language Studioで語学を学んでみませんか（工学分館）

Language Studioは、工学分館1階にある語学自習用のエリアです。ヘッドセットとパソコンを備えた個室ブースが20あり、リスニングやスピーキングの練習に取り組めます。TOEICやTOEFLなどの試験対策用の本があり、大学院入試や就職活動に向けた準備ができるほか、留学対策や学会のプレゼン練習などにも利用できます。利用時間は平日9時～ 20時（短縮開館時は17時まで）です。

オンラインで時間や場所を選ばず語学学習ができる昨今ですが、成果を挙げるには集中することが大事です。「語学学習に没頭するための場所」として、スマホなどを切って利用してみてはいかがでしょうか。

▶語学学習のための参考書を豊富に取り揃えています

INFORMATION

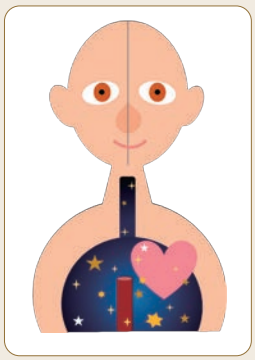
医学分館に公式キャラクターが誕生しました！「星陵次郎と申します」

2016年に医学分館にやってきた、館内貸出可能な卓上サイズの人体模型。広報に当初は実物の写真が用いられていましたが、ポスターなどでの使い勝手から、非公式のデフォルメキャラクターとしてイラスト版「青葉次郎」が使われるようになります。

その後熱心な活動が認められ、2018年春、ついに医学分館の公式キャラクターに！

公式化に伴い、体内に星を抱いたデザインになると共に名前も「星陵次郎」と改められ、より星陵地区の図書館キャラクターとして親しみやすくなりました。

「これからも広報活動に励んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします！（星陵次郎）」



プロフィール

- 星陵次郎（せいりょう　じろう）
- 3月15日生まれ
- 年齢はヒミツ
- 趣味は人間観察
- 様々な見た目に変身するのが得意

Twitter　@Tohokulib_M
医学分館からのお知らせをお届け！次郎も頻繁に登場します

公式 HP　http://www.library.med.tohoku.ac.jp/character/jiro.html
次郎専用ウェブサイト「次郎の研究個室」がオープン！
徐々にコンテンツも充実させていくのでお楽しみに♪

工学分館は40周年を迎えました

工学分館は、昭和53年（1978）4月1日に設置され、今年40周年を迎えました。

大正8年（1919）の工学部創設時、工学部には学科ごとに図書室が置かれていました。昭和44年（1969）、工学部が片平キャンパスから青葉山キャンパスに移転したのを機に、学生向けの学習図書を提供する工学部中央図書室が発足し、より多様な資料・サービスを提供するため、昭和53年（1978）に附属図書館工学分館となり、各学科の図書室を順次統合して現在に至っております。

工学分館では、40周年を記念して、その歩みを科学の出来事とともに振り返るミニ展示を行う予定です。開催日程については、後日、ウェブサイト等で改めてご案内いたします。

Tohoku Univ. Library
@hagi_no_suke
東北大学附属図書館のツイッター公式アカウントです。東北大学生の学習とキャンパスライフのためにつぶやきます。
https://twilog.org/hagi_no_suke
Sendai, Miyagi, JAPAN

KIBOKO 木這子
ISSN 0385-7506
Bulletin of the Tohoku University Library Vol.43, No.2
（通巻159号）
2018. 7. 1
編集・発行
東北大学附属図書館報「木這子」第43巻第2号
［発行日］2018年7月1日　［発行］東北大学附属図書館
［発行人］加藤 晃一（広報委員会委員長）
東北大学附属図書館
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
TEL:022-795-5911 FAX:022-795-5909